

大和郡山 防災ニュース 2.9月

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、動きや情報を提供します。

事業所のみなさん 消防団と連携して地域防災にご協力を！

消防団は、市内19分団約300名の消防団員が防火防災のため活動しています。消防団と地域防災のつながりといえば、毎年5月に開催している「『自主防災組織』と『消防団』防災のつどい」や自治会での防災訓練の参加などを通じて、顔の見える関係を築きつつあります。

そして今年度からは、企業・団体など市内の事業所と消防団が連携して災害時の対応に当たる「消防団サポーター制度」をはじめました。この制度は各分団の分団長が、いざ災害時に防災リーダーとして地域の防災力を束ねて、救命・救助・応急復旧を進めていく制度です。



この制度には3つの特徴があります。

- ①今年から各分団に2台ずつ配備された消防団無線を通じて、災害現場と市災害対策本部が直結し、行政とも一体となった災害対応が可能に！
- ②消防団サポーターになっていただいた事業所に、市の防災協力事業所にも重複登録していただくことで、災害時の活動への市からの適切な費用負担が可能に！
- ③消防団サポーター(及び防災協力事業所)にお申し出いただいた事業所に、左のステッカーを配布し、社会貢献の証に！



現在、消防団サポーターには、額田部分団へ7事業所がお申し出いただいています。消防団と共に、いざ災害時に防災を担っていただける事業所におかれましては、地域の消防分団(分団長)もしくは市民安全課にお声がけいただきますようよろしくお願いいたします。

台風シーズンを迎えて「総合防災マップ」を活かそう！

今年も台風シーズンを迎え、先日も台風10号が九州に接近し、広範囲にわたる避難指示の発令に避難所が定員を超えて溢れ、避難できなかった方が続出するなどの事態が報道されていきました。台風の接近に際しては今回のような強風による被害もありますが、奈良県においては浸水害の心配が大きくなってまいります。そこで活用していただ

きたいのは、今年4月に市内全戸に配布した『総合防災マップ』です。このマップでお住まいの場所がもし浸水害となった場合、どのくらい



の高さの水害となるのかを事前に確かめておきましょう。マップでは、12時間総雨量316mmが降った状況での浸水想定を、「心配なし」「～0.5m」「0.5～3.0m」「3.0～5.0m」「5.0～10.0m」に色分けしています。「0.5～3.0m」で河川から比較的離れている場所なら、当座は2階以上への垂直避難で一時的にしのご、水が引いた後に市指定避難所などに避難することも考えられます。ご自身がどんな場所に住んでいるのか、事前に知ることにより、いざという時にあわてずに判断し、行動できるように心がけましょう。

地域防災に学生さん・こどもの視点も取り入れよう！

地域防災の担い手、たとえば、自治会長や役員さん、班長さんなどというイメージを持っておられる方、多いのではないのでしょうか？

以前、このニュースの記事の中で「(要支援者)名簿の活用は会長さんや一部の役員さんが責任を負うのではなく、地域の皆で考えていただく---」という文章を掲載したことがありました。言うまでもなく、地域防災は、地域に住むみなさん全体と一緒に考える課題です。そして、自治会単位での防災の基本は、災害時に「安否確認」と「安全な避難」ができる避難計画をつくることです。その計画づくりの中に、学生さんや子どもにも参加してもらうことも検討してはいかがでしょうか？避難経路を検討するための現地確認にこどもの視点を入れて「目からウロコ」の発想があったという話も聞きます。また、災害時には地域にお住まいの学生さんにも協力してもらおうという発想も出てきています。「誰かがやってくれる防災」から「地域一体の防災」へ、ご協力をお願いします。



自治会などの防災出前講座依頼も受付中！ 少人数でも訪問します。市民安全課までご相談ください

このニュースは、市民安全課、市内の各支所、矢田コミュニティ会館、南部公民館で配布しています。また、市のHPでもご覧になれます

大和郡山防災ニュース 🔍 検索

消防団のニュースは、『大和郡山市消防団へようこそ！』をご覧ください

大和郡山市消防団へようこそ 🔍 検索

発行人 市役所市民安全課